

事例4

那須塩原市高林公民館・那須塩原市立高林中学校

高林そばフェスタ in 高中

連携の経緯



高林公民館（高林活力倍増センター）は、高林中学校に隣接している。このことから、①地区体育祭や各種審判講習会など中学校のグラウンドや体育館を公民館事業で使用している。②学校週5日制対応事業やPTAと共に開催での家庭教育講座が開催されている。③公民館と学校の共催事業では、薬物乱用防止教室や国際理解教育に係わる交流活動などを実施している。このように公民館は高林中学校と施設や事業において、長年の連携の蓄積がある。

高林地区は県内有数のそばの産地であり、栽培農家が多いことから、各家庭でそばを打つといった生活文化が特色となっている。そこで、中学校がそばに関する学校行事を企画し、公民館に提案し、協力を得るという連携事業が平成12年にスタートした。同時に地域のそば打ちグループ（麵道楽・高林そば研究会）や地元の製麺所の協力も得ることができ、学校を中心に公民館だけでなく、地域との広範な連携事業となった。

連携事業の概要

この事業は、中学校の事業である「高林そばフェスタ in 高中」を公民館と中学校が事業協力することによって実施するものである。具体的には、①中学校で使用するそば打ちの道具を公民館が調達し、搬入から搬出までを引き受けている。他の公民館からの借用も全て公民館が責任をもっている。②公民館からの事業費の一部が補助されている。③老人会への案内や招待に係わる事務を公民館が引き受けている。このように公民館の協力無しには実施できないものとなっている。また、この事業の翌日は公民館の主催事業である「活力倍増センターまつり（以下、倍センまつり）」となっており、「そばフェスタ」と一体のものとして、地域の年中行事に位置づけられている。倍センまつりでは食品販売や各種サークルの発表が行われるほか、地元の小中学生の作品も展示される。そばフェスタが倍センまつりの前夜祭のような位置付けとなっており、そばフェスタの参加者が翌日は倍センまつりの展示を見学するなど、事業の広報に大きな役割を果たしている。地域との連携については、地元のそば打ちグループがボランティアでそば打ちの指導にあたり、全生徒が体験する。今年度参加した高齢者は7老人会33名であった。

連携の形態

本事業の連携は、施設や指導者、設備・備品の貸借、事業日程の調整による一体化であり、連携が地域の年中行事に発展している。学校では教頭が、公民館では担当職員が連携の窓口となり、連絡を取り合って事業を進めている。

那須塩原市高林公民館(高林活力倍増センター)

【施設データ】

所在地	那須塩原市箭坪347-1
電話	0287-68-0115
設置年	平成7年
対象地域人口	6,500人
延床面積	896.94m ²
設置状況	単独
U R L	

【施設の管理運営等】

職員の状況	・館長（専任1）
	・活動振興係長（専任1）
協議会等	
予算額	10,165,000円

連携の留意点

- 公民館と学校は、指導者情報や施設・備品を共有してきた経緯を大切にしながら、お互いの特性、得意分野を生かす。
- 連携は相互に最後まで責任をもって行う。例えば、学校に貸し出したそば道具は搬出と搬入まで公民館が責任を持つことや案内の送付だけでなく出欠の確認まで行う。



成 果

- 運営などは、連携の蓄積があり地域恒例の行事となっているため、経験が生かされていて円滑に進めることができる。
- 生徒がそば打ちの技術を地域の人たちの指導で学ぶことは、生徒が地域社会の構成員である自覚と、地域文化を継承発展させる担い手としての自覚を促す意義がある。
- 事業をとおした生徒と地域の人々との交流が、地域連帯・地域理解を促進させ、まちづくりに発展している。
- 生徒が自ら打ったそばを各家庭に持ち帰り家族で食べることで、家族との対話が促進され、家庭教育の充実に資するものとなっている。
- そば打ちの技術を身につけた高林中学校の職員が、中学校区内や近隣の小学校から、総合的な学習の時間などでのそば打ちの指導者として、講師依頼が増加している。

課 題

- 地元の製麺業者から廉価でそば粉の提供を受けている。予算の継続的確保や資金の調達が今後の課題である。
- 公民館事業と日程が重なって職員が多忙である。備品の貸借などに遗漏がないように進めていきたい。

